

会報
峠 とうげ
 河井継之助記念館
 友の会会報
 第4号
 2009.03
 編集・発行
 河井継之助記念館
 新潟県長岡市長町1丁目1675-1
 〒940-0053
 Tel.0258-30-1525
 Fax.0258-30-1526
 頒布価:50円(送料別)



感 懐
 河井継之助記念館友の会副会長 田中 愛子



「峠」――司馬遼太郎のこのタイトルには以前より心惹かれておりました。「峠」という文字をジーツとみておりますと、その造形がモダンアートとして、素敵に思われてくるのです。辞典によれば、国字で、手向け(たむけ)より転じたもので、通行者が旅路の安全を祈って道祖神に手向けた所の意、即ち頂上のことでもあります。

この「峠」の持つ意味の深さと、司馬遼太郎の本のタイトル「峠」への焦点のモダンさを痛感いたします。

三国峠・雪峠(小千谷市南部信濃川西岸)・榎峠・森立峠・八十里こしぬけ武士の越す峠――幾重にも織り成す峠は、河井継之助の人生そのもの、運命のハドルだったのでしょうか。

「峠」は草鞋履きに象徴されるかのように世情に苦渋し、四十

二才の生涯を閉じた河井継之助のイメージに他なりません。「峠」という文字のもつ深い深い文字力を痛感するのです。

北越戊辰戦争に因みまして、私の身辺にこんな事がございました。父がよく私達に語りきかせた左近の土手にある先祖の碑のことであります。

(碑文右下)

表には、十五代藩主、初代長岡市市長、牧野忠篤公揮毫による「渡辺助三郎戦歿地」と、記され、戦死より六十年にして建立。八十年目に当る昨年九月二十二日修

復。牧野忠昌様よりご来駕賜り
 献花をして頂き、今日も変らず
 吹き渡る信濃川原の風と共に改
 めて撰文を嘯み締めたのでした。

碑 文

渡邊助三郎諱ハ春之幼字音藏市郎兵衛ノ四子也
 牧野候ニ仕フ為人潤蓬幼ニシテ劔ヲ字ビ其技上
 長ス戊辰ノ役藩軍ニ従フ七月二十九日長岡城再ビ
 陥ル助三郎連戦左近堤上ニ於テ敵弾ニ中ル乃從
 容介錯ヲ戦友ニ托ス戦友元ヲ負フテ会津ニ走ル
 時二年三十四後遺髪ヲ本妙寺先塋ノ次ニ葬リ又
 石ヲ戦歿ノ地ニ立ツ爾來星霜ヲ閱スル六十年桑
 滄ノ變ノ其遺跡將ニ印湮歸セントス是ニ於テ親
 戚相謀リ新ニ碑ヲ建テ其由ヲ記シ以テ之ヲ表ス

昭和二年七月 今泉 鐸 撰



昨年4月の総会にて顧問・牧野忠昌(左側)夫妻と

田中愛子プロフィール

長岡市生まれ。書家、号・玉蘭。師・今井凌雪。雪心会会員、日本書芸院二科審査会員、タイ国立シラパコーン大学客員教授、スペインプラド美術館正会員。河井継之助記念館設立時には故・原信一前友の会会長と共に展示運営委員として尽力。今号の会報に渾身の題字「峠」を寄せた。

峠抄 とうげしょう ③

一月二十四日、昨年に引き続き「河井継之助記念館新春コンサート」が催されました。朗読とギターで綴る「継之助と妻すが・長岡の冬物語」をテーマに雪見のミニ演奏会となりました。雪が降りしきり、辺りが薄暗くなつてくる中、玄関と庭に飾った蠟燭のほのかな明かりがお客様を迎え、七十余名がギターと朗読の調べに耳を傾けました。

コンサート第一部はギター・畠山徳雄さん、朗読・吉原玲子さんによる「継之助とすがの物語」、戊辰戦争鎮魂曲「地水火風空」の哀愁をおびたギターの調べと、朗々と流れるような語り口が聞いている人を幽玄の世界へ誘います。

第二部はギターとフルートで「バチカ」「たき火」など、冬にちなんだ曲が演奏されました。会場から誰となく口ずさみ、観客の歌声が一つとなって心温まる一時を過ごすことができました。「懐かしい曲にジーンとした」「忘れていた子供の頃を思い出した」などの声がか聞かれ大盛況のうちに終わりました。また、来年の開催を期待しつつ帰るお客様の笑顔が印象的でした。

(伊佐)

『峠』の越後長岡を歩く

③ 連載

司馬遼太郎著の『峠』に描かれている「越後長岡」の風景を現在に訪ねるシリーズ。今回は、戊辰戦争時に長岡藩本営が置かれていた撰田屋を歩いてみました。

●『峠』下巻・新潮文庫207ページより

全軍を指揮する野戦本営は、長岡城にはおかず、それより南の撰田屋という村に置き、継之助はそこに常駐することにした。

撰田屋本営にゆく朝、継之助はその妻のおすがをよび、「おすが、撰田屋という村を存じているか」と、世間ばなしでもするようにいった。

「セツタヤ？」おすがは、知らない。

長岡藩の本営が置かれた撰田屋は、長岡城より南へ一里(約4キロ)ほどの所にあり、その先の



小千谷には新政府軍の本営が置かれていました。

撰田屋という地名は、中世に存在した、山伏や僧侶などの無料休憩所が「接待屋」と呼ばれたことに由来していると言われています。

江戸時代、この集落は長岡藩領の撰田屋村と上野寛永寺直属である蔵王領の撰対屋村という二つの領地が入り交じって存在しており、実質的には一つの村のようになっているようです。継之助が常駐した本陣は、蔵王領撰対屋村の光福寺に置かれていました。

現在では、長岡市撰田屋という地名に統一され、光福寺は同じ場所である撰田屋一丁目に現存しています。秋恒例の「米百俵まつり」では、ここで長岡藩の出陣式が再現されており、継之助をはじめとする藩士達の武者行列を見ることが出来ます。

また、この地域は蔵王領の税の規制が弱かったこと、そして質のよい地下水が豊富にあったことなどにより、古くから醸造業が盛んでした。現在も味噌・醤油・酒などの老舗の蔵元が数多く軒を

ならべています。さらに、近年町おこしの会が設立され、旧三国街道沿いの歴史と醸造の町として注目されつつある観光スポットのひとつとなっています。

(権澤・神保)

参考文献

「長岡歴史事典」(長岡市編)

「古文書に見る長岡のすがた(六)」

(長岡郷土史研究会編) 他



戊辰戦争時に長岡藩本陣となった光福寺

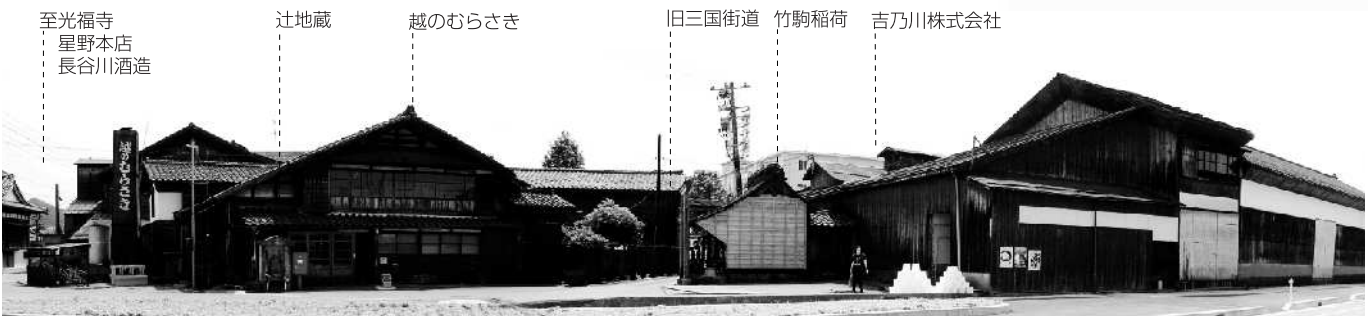
浄土真宗本願寺派青木山光福寺。上杉家の重臣本荘氏の創立。寛文4(1664)年に柿村青木山より、現在地撰田屋に移転した。戊辰戦争では焼失を免れたが、明治36(1903)年、打ち上げ花火の飛火で本堂が全焼。現存している本堂は、大正5(1916)年に再建されたもの。



こてろ
サフラン酒本舗の鍔絵蔵
(国の登録有形文化財)

撰田屋
Settaya

竹駒稲荷のお狐さま



至光福寺
星野本店
長谷川酒造

辻地蔵

越のむらさき

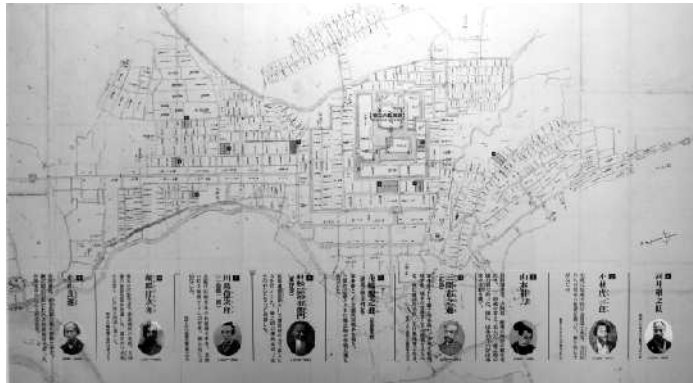
旧三国街道 竹駒稲荷 吉乃川株式会社

長岡城下 ―幼いころの●パネル紹介

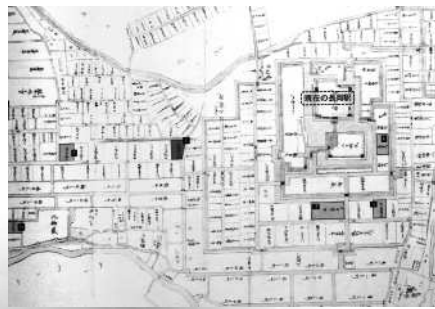
継之助の幼少時代にあたる頃（一八三〇～一八四八）の長岡城下図です。

約一キロメートル四方の長岡城を中心に、南北に長い城下町が描かれています。城の周りには、武家屋敷、町人・職人たちの町屋、南北の端には足軽屋敷が建ち並んでいます。よく見ると屋敷主の名前を読み取ることができ、河井

継之助の父・代右衛門の名前は神田口御門の近くに見られます。また、藩政改革や北越戊辰戦争で継



パネル全体図



米百俵で有名な小林虎三郎の屋敷は、河井邸からわずか三、四百メートル程のところに。

之助と関係のあった藩士の屋敷の位置も示してあり、米百俵で有名な小林虎三郎の屋敷は、河井邸からわずか三、四百メートル程のところにあります。地図の下には、山本帯刀や三島億二郎等活躍した藩士の紹介があります。長岡藩の優れた人物を改めて知ることが出来ます。

地図の中で寺社や今も残る道や町名を発見できます。今、私たちが何気なく通っている道を当時の人々も往来し、生活していたのだなあ…と、なんだか不思議な感じがしてきます。

このパネルの前で足を止め、じっくりとご覧になる来館者も多数います。遥かなる往時に思いを馳せているのでしょうか。

（神保・伊佐）

参考文献
『長岡城を歩く』青柳孝司著



展示品紹介

③

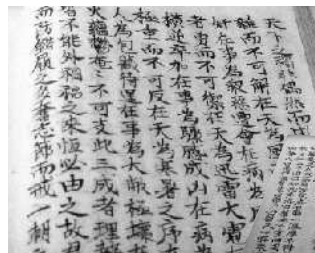
自筆写本 『呻吟語鈔』『歐陽文忠公集』
24cm×16.4cm, 24cm×16.4cm
(長岡市立中央図書館 所蔵)

継之助が中国の書物を筆写したものです。『呻吟語鈔』は、中国の明時代の思想家・呂坤が著した人生訓『呻吟語』を抜粋して写し取り『呻吟語鈔』と名づけたもの、『欧陽文忠公集』は、中国の宋時代に活躍した、政治家であり学者でもあった欧陽修の文集を写したものです。

継之助の読書法は、広く多くを読むのではなく、良いと思った書物は必ず書き写し、細かいところまで何度も深く読み込むというものでした。江戸遊学中も塾の書物を筆写しており、同じ塾生は「河井は字を書くのではない、字を彫るのだ」と言っています。写本に書かれた文字を見ると、くずし字の時とは違い、楷書で慎重に写しとっていることがわかります。一筆一筆注意深く集中して書く姿、あるいは、読みながら心に刻むようにして書く姿が、まるで字を彫っているように見えたのかもしれない。（樺澤）

参考文献：『河井継之助傳』（今泉鐸次郎著）

※記念館展示室2階「西国遊歴一の旅」コーナーに展示中。



自筆写本『呻吟語鈔』



自筆写本『欧陽文忠公集』



河井継之助はどういう人物？

その③ 河井家の先祖

連載

河井家の先祖をたどると、近江（いまの滋賀県）膳所藩本多家の家中、河井清三郎に至る。年月不詳、牧野家の御前扈從に召しだされると家譜にある。その家譜にのちの延宝三（二六七五）

年四十石を賜わるとあり、二代忠成は延宝二年に没しているから、三代藩主牧野忠辰が家督を相続して間もなく、禄高四十石をもつたことになる。

このとき、清左衛門と名乗ったというが、以前は通称の清三郎であった。清三郎には弟がいて、忠右衛門俊秋と名乗っていたが、長ずるに従い才覚を發揮し、別家をたてて百石で召し抱えられることになった。『河井継之助傳』では「兄弟二人までが牧野侯に召出されしは、初代忠成の長子大和守光成の室が本多下総守俊次の女なりし為」といっている。

その忠右衛門には二人の子がいたが、長男金太夫は百三十石に増加され、二男の代右衛門信堅も宝永四（一七〇七）中小姓に召し出され、三十石二人扶持を与えられている。この代右衛門が河井継之助家

の初代となる。代右衛門信堅は、藩主牧野忠辰の信任が厚く、登用され、正徳元（一七一）年には葉番、同年小納戸役小姓格として側近となった。

忠辰が没してからも累進し、吟味役などの重職に就く。そして、四代藩主牧野忠寿の長女八千姫付となつてから、一層、藩主の信任を得て、加増につぐ加増で禄高百二十石まで昇つた。役職も延享二（一七四五）年には郡奉行、勘定頭格となり、藩政の重要部署を担当することになった。

河井家が代々、郡奉行や勘定頭に就任するのは、初代河井代右衛門の出世によるものであった。同三年には新潟町奉行となり、宝暦二年には二十石を加増されて、都合百四十石の河井代右衛門家が成立する。

二代河井代右衛門秋高は江戸詰が長く、城下囃に代右衛門家の屋敷がみつけれられないのはそのためである。三代代右衛門秋恒も大坂詰、江戸詰が多かったが、郡奉行に就任したころから、城下四郎丸口・長町の屋敷を賜っている。



牧野忠雅書状



牧野忠雅肖像

神田口御門外の角の長町の屋敷は、三代代右衛門秋恒以来、四代・五代と幕末までの河井家の住居となる。長町南端の角屋敷は、火急の際、登城できる好位置にあることから、河井家の重用が推測できるものである。

三代の河井代右衛門は能吏であつたという。天明六（一七八六）

年に家督を相続したのち、九代藩主牧野忠精に重用されている。寛政三年には大納戸役、同四年大坂詰、同十二年郡奉行、文化十一年には勘定頭となった。とりわけ郡奉行職が長く、領内の隅々まで巡回し、村政の改革をすすめている。とりわけ、

主君が長年、懸案していた領内曾根組・巻組にかかる三濁干拓工事を開始した際、代右衛門が現場の総指揮をとつた。これは三濁の水を西山丘陵をくり抜いて、日本海へ流そうという壮大なものであつた。この難工事は多額の費用を必要としたため、藩財政は破綻に瀕した。

文化三年に代右衛門がお叱りをうけ責任をとつている。その事後を処理したのが、小林虎三郎の父、又兵衛であつたため、河井家と小林家の葛藤は、このあたりからはじまったかもしれない。

水抜げ工事から、手を引いた

のち閉塞したが、文化十一年に勘定頭に復帰し、忠精から雨龍の絵を賜っている。このころの勘定頭は藩主牧野忠精が老中職に就任したため、その費用の捻出に苦労した。代右衛門もたびたび大坂の長岡藩蔵屋敷に出張し、藩米の高額な頒布に努力した。しかし、大坂商人と対等にわたるりあえるはずもなく思うような利益をあげられなかった。そのため、勘定頭の代右衛門は窮地に陥入ることが多かった。当然、藩士の知行宛の配分は減らされ、儉約令がたびたび発布された。

そして、勘定頭役、河井代右衛門秋恒は文政五年十二月「家中困窮につき、その取締りよるしからず」の裁定が下され嚴重なお叱りをこうむり、二年後には御役御免となつている。

これらは河井継之助誕生の三年から五年前の出来事である。その後、河井家には不幸が続き、三代の代右衛門は失意のうちに、文政十三年閏三月に病没した。

すなわち、継之助誕生の三年後に祖父は無念の死を遂げたことになる。

河井家の五代を継ぐ河井継之助にとつて、これらの祖父の思いが、その人格形成になんらかの影響を与えたにちがいない。

「塵壺」を読む

③ 連載

河井継之助記念館では毎週土曜日に、河井継之助の自筆の旅日記「塵壺」を読み解く会を開催しています。そこで、話し合われたことや、解明できた謎や不思議、継之助の人間性などを順次、この会誌やそのほかの広報でご報告したいと考えています。



「塵壺」 記念館に展示中 (長岡市立図書館 所蔵)

四人はつれだつて横浜に急ぐ。炎暑の日が続いていたから、継之助らの旅装は至って軽装であった。途中、品川で海に浮ぶ異国船を見た。継之助には初めてみる異国船で二隻もいた。「何れも城のごとき有様」と記しているから、その大きさと黒色を城だとみたのであろう。

いままで、嘉永五年(一八五三)第十代牧野忠雅は、老中筆頭阿部正弘とともに幕政を

六月のペリー来航時、佐久間象山門下であった継之助は、当然、川島億次郎(三島億二郎)・小林虎三郎らとともに、浦賀沖の黒船を見聞したものと考えられてきた。ところが、同時に見聞した佐久間象山・吉田松陰らの記録にも継之助の名はみいだせない。それは記録洩れくらいに考えられていたが、最近、継之助が同時期に長岡城下にあった伝聞があることがわかった。それによると、ペリー来航の報

が長岡城下で伝わり、継之助は、一大事とばかりに城下の銘菓「越乃雪」を、秋山恒太郎という少年に携わせて江戸へ向わせた。そして、藩公牧野忠雅を守れと命じている。己れはよんどころのない用務があるので行けないが、藩主の苦衷を察し、かわりに御菓子を持参せよというのである。

担当していた。阿部と牧野は特に海防掛を兼務しており、近年、日本沿岸に出没する異国船を取締る役目を担っていたのだ。

ペリー来航は当時の日本を危機におとしめた。四隻の軍艦は、空砲を轟せながら開国を迫ったのである。当時の日本の船は千石船でも約百トンくらい。アメリカの軍艦は二千四百トンもあった。太刀打ちができないのだ。幕閣もてんやわんや。その責任者の一人に牧野忠雅がいた。継之助はその慰勞を「越乃雪」でしようというのである。余程、忠義の心を持っていたか、親密な家臣の一人であったと思われる。



水島爾保布模写による大和屋外観

むしろ、その示威行為を楽しんだというのである。やせ我慢の得意な長岡武士の本領発揮というところであろうか。

「新たに出来し家にて、色々店を広げ、中にも目立つは塗物店、其の結構、都会にもなき処なり」 外国商館も含め、進出してくる日本人の店舗や住宅の普請もさかに行われていた様子がかうか。日米通商条約締結後、つぎつぎと各国との開国通商が結ばれた。その責任者に藩主の牧野忠雅が就いていたことは、長岡藩主の一人としても大いに慶賀なことであつたにちがいない。四人はブラブラとそんな横浜市中をみてまわると塗物店が目立ったというのである。それも江戸市中にもないような立派な塗物店だった。塗物とは、木工品に漆塗をし、花鳥風月などの絵を描いたものである。開国当初、西欧で珍重されて輸出品のひとつであった。その店舗が継之助には異様に映ったというのである。

神奈川の宿へは八ツ頃、いまの午後二時ころ着き、そこから船で横浜に入っている。当時の横浜は開港したばかりで、埋め立て工事も続行しており、新しい島が出来てくるような感があつた。新しい町に通ずる道を開削するよりも船で行った方が便利だった。

このの旅の途中で輪島塗りの品物を取り扱う商人に継之助は出会うが、その商いは高は、けはずれに高く、多かつたことに驚いている。

「銀銭の価も定まらざる故、交易も暮々しからず」とは、銀価の相場が不安定なので、交易(外国人との取引)がうまくいかないことを嘆いている。日本は三貨主義(金・銀・銅貨)をとり、金一両に對し銀六十匁を固定レートとして、国内経済をとりしきっていた。金は江戸を中心とする経済圏。銀は大坂を中心に、銅貨は全国に通用していた。どちらかというと日本の通貨量は少なく、物々交換も併用して貨幣の絶対量は少なめであつた。そこに外国との交易がはじまると俄かに貨幣の重要性が増すとともに、金貨の価値が上り、銀貨の交換レートが下りだしたのである。それは外国では金一に對して銀十六という、とてつもない銀貨の低い価値が、直接、貿易に影響したのである。

それに日本の商圏の多くは、大坂商人が握っていたから、銀価中心の商売はたちまちゆきづまった。そんな状況が開国間もない横浜にあらわれていた。 継之助はそんな状況を横浜の町の様子の中から観察していた。

(稲川)



今年のギターコンサートin記念館。
朗読の吉原さんとのコラボは10年近く。

ギター演奏家

はなげやまのりお
島山 徳雄 さん（六十六歳）

組曲「地水火風空」

—あの時代に散った全ての魂へ—

「先生、記念館でギターの演奏会しませんか？」島山さんとの出会いは戊辰百四十年の初冬だった。「記念館が開館しからずとその言葉を守っていたよ！」島山さんは、トレードマークの優しい笑みを浮かべ快諾してくれた。演奏会当日、島山さんは観客の度肝を抜く楽曲を弾いた。「戊辰戦争鎮魂曲『地水火風空』」。その曲が作られるに至った経緯や思い、さらには長年拭いきれない河井に対するある疑問まで、たっぷりとお話を伺った。

フランスでの演奏

ある長岡藩士に捧ぐ、

「二十数年前かな、ひよんな縁であの曲を作るようになってね」二八六八（慶応四）年五月二十四日、杉沢の戦いで旧幕府軍側は七名が犠牲となった。「その時戦死した長岡藩士・村上藤左衛門の末裔とはギター仲間。縁を感じて藤左衛門さんへのレクイエムのため作曲した。ただ、今となつては戊辰戦争で亡くなった全ての人に捧げたいね」

戦死した兵士名が刻まれた墓碑が杉沢町内にある。「あの場所にちゃんとした案内板を作つてあげたい。藤左衛門さんが私にそうしなさいよつて言っているような気がするんだ」

戊辰戦争鎮魂曲は「序・地・水・火・風・空」の六曲構成。「地水火風空は仏教の言葉。魂は死後もこの五つの語の世界に存在する—そんな話を聞いたことがあつて、いい言葉だなと思つた。それでこの題名をつけた」戊辰百二十年の昭和六十二年、島山さんは河井継之助の墓所・栄涼寺でこの曲を弾いた。継之助終焉の家四代目矢沢大二さんと企画したものだった。「さすがにフランスで弾いた時は観客の反応が気になったよ」という島山さん。外務省からの依頼で九八年の「フランスにおける日本年」事業に参加、「侍魂」という日本の精神文化を伝えた。

「長岡人」の精神性

法政大学に在籍したのはピート

ルズが来日する少し前だった。「長岡高校では堅く『質実剛健』の校風を守ってきたから、大学進学と同時にギターの世界に飛び込んだ」それから四十年以上、郷里長岡を拠点にギタリストとして活躍している。郷土史にも造詣が深い島山さんは「河井さんについてひとつだけ、どうしても疑問に思うことがあつてね」こう語る。

「先見性のあつた河井さんが長岡城を奪還しようとしたことがね…彰義隊と似た感覚なんだけど、理性より侍魂とか情の部分が勝ちさつたのかな」島山さんはそれを「長岡人の精神性」と語る。「それと、河井さんには自分に意見してくれる目上の人がいなかったと思う。物事を成すにあたつてそれは必要不可欠なこと。山田方谷がそうであつたのかもしれないが、二人の間には地理的にも『距離』があった。方谷は河井の行く末を一目で見抜いたので、河井たつての希望で、方谷は「王陽明全集」を四冊で譲つた。方谷はその巻末に二千七百字におよぶ文章を記



島山徳雄プロフィール

長岡市生まれ。ミュージクスペースノア主宰、新潟県ギター協会会長、新潟中央短期大学講師、平和の森コンサート実行委員長。98年には「フランスにおける日本年」事業で渡仏、戊辰戦争鎮魂曲を演奏し喝采を博す。阪神大震災時にはチャリティコンサートを企画。コンサートホールやホテル他、寺院や公園、福祉施設等で演奏しマルチに活動している。

し、長生葉を添えて贈つた。それが河井に対する精一杯の忠告だったのだろう。

力の限り
自身の活動は「仕事よりボランティアのほうが多い状況」だという。三歳の時、長岡空襲を体験したこともあり山本五十六にも思い入れのある島山さん。「昨年は山本五十六親善訪問団の一員として長岡市長とともにハワイへ、今年は旅行会社からの依頼でホノルルフェスティバルに参加する」のだそう。「五十六さんも『長岡人』。頼まれればいやと言えない性質だからなあ」週に一回はあちこちで演奏活動をしている。春も演奏会が目白押しだ。「体力の続く限りギターを弾き続けたい」島山さんも生粋の長岡人だ。
(インタビュー／嘉瀬・写真／櫻井)

会員の声



●お気に入りの展示物

河井継之助記念館で一番のお気に入りは「忍可以支百勇 一静可以制百動」の軸装です。山本五十六がロンドン軍縮会議に向かう際、「河井継之助の心境で行く」とは、野本互尊翁から同じ内容の書を見せてもらった時の示唆が大きかったと聞いています。この軸装は郷土の偉人である三人を同じに感じることができ一品です。観光ボランティアガイドの私は、この軸装を他の記念館、博物館でも必ずお客様に紹介しています。

— 稲持正也（長岡市）

●入会のきっかけ

歴史に全く興味のなかった私でしたが、NHKの大河ドラマ「篤姫」を見てから歴史に思いを寄せるようになりまし。誰か一人でも深く情熱的に語れる人物がいらないものかと暗中模索している時に「河井継之助友の会」を知り早速入会する事に決めさせて戴きました。これから会の諸先輩に沢山の事を聞いたり、見たりさせて戴きたいと思ひます。先人（河井）の想いを自分の人生と照らし合わせて行きたいと思ひています。胸の高鳴りを手で押さえています。

— 大塚 シズエ（長岡市）

●ある胸像

梅林で有名な「みなべ町」の南部高校に一基の胸像がある。この胸像こそ誰であろう河井継之助の甥・牧野

環氏その人である。昔記によれば「母安子八執政河井継之助ノ實妹」とあり、大正五年当時の県立紀南農業学校長として就任、以来二年の長きにわたって勤続その功績を讃え校友会の発意で、保田龍門の手により完成されたということである。

賊軍の巨魁と目された継之助を伯父にもった氏の胸中果たして如何。

— 宮本尊生（和歌山県和歌山市）

●勉強中

昨今、色々な所で改革が叫ばれる中、私が幕末から明治維新にかけて、興味を持つようになったのは、ここ二、三年です。どういう人物がどんな考えを持って改革を行なっていたのか、各地の資料館、また本を読み勉強している最中です。その中で、河井継之助の考え方が、どんなに素晴らしいかがわかってきました。これから継之助について、友の会の一員として、恥ずかしくないよう、もっと勉強していきたいと思います。

— 天野紳一（千葉県茂原市）

「会員の声」大募集!

原稿は二百字以内（題名、氏名は字数外）、事務局までお送りください。投稿を心よりお待ちしております。

短信 友の会ニュース

●銅像建立

完成に向けて着々と製作されています。

遠めがねを持ち、革靴を履いている点に注目してください。時代の動きにするどい感性を持った

●松樹植樹

只見町からの松樹移植は、いよいよ5月に行われます。五月二十日（水）にセレモニーを計画しています。

継之助が表されています。西国遊歴をしている継之助が目に見えるようになります。



河井継之助像のエスキス（画稿）より



『峠』文学碑

おしらせばん

●友の会総会

来る4月25日(土)に平成21年度の総会を開催します。

・総会／14:00～14:30

・講演会／14:30～16:00

「司馬遼太郎『峠』の文学碑建立について」

講師・小千谷市文化財調査審議会委員長 山本 清さん

・懇親会／16:00～18:00

・会場／会館 青善(長岡市表町 4-3-9) ※申込が必要です。

●河井継之助旅日記『塵壺』を読み解く会

毎週土曜日 午後1時～3時

●今泉鐸次郎著『河井継之助傳』を読む会

第2・4月曜日 午後1時～3時

●楽しい詩吟教室

第2・4土曜日 午後3時～4時30分

各講座とも事前申込が必要です。休講になることもありますので詳細は記念館へお問い合わせください。

記念館日誌 某月某日

ある冬の日の朝。庭にある苔むした石の上に、薄いピンク色をした小さな物体が！

ガイドボランティアさんが発見し、職員全員が窓際に集まって、何だ何だと大騒ぎに。辺りは一面の雪で足跡ひとつない。

何といつても河井家ゆかりの庭。折れた松の木の写真に武士の顔が写り、月夜に光る大きなキノコが生えたこともある。もしや、昔から奇跡の花が!と思いつつ、近づいてよく見てみるとそれは…魚肉ソーセージでした。どうやらカラスの仕業だったようです。

(樺澤)

河井継之助記念館 友の会について **会員募集中**

会員の交流や情報交換を通して継之助について親しみ、学び、記念館を応援する会です。

●**会員数** / 正会員: 416名 / 協賛会員: 81名(2/28現在)

●**特典** / ①友の会会報「峠」配付
②会員との交流 ③催事案内・参加 ④研修旅行への案内・参加

●**入会手続き**
①申込書に会費を添えて、事務局へ持参。
②申込書を事務局へ送り(郵送、FAX)、会費は銀行振込または郵便振込で納入。(手数料は本人負担となります)

●**年会費** ※会計年度は3月31日まで
①正会員(ア)小・中学生:500円 (イ)高校生以上:2千円
②協賛会員 / 一口5千円(法人の他、個人でも可)

●**口座について**
・加入者名 / 河井継之助記念館友の会
・口座番号 / 郵便局 00560-9-96432
長岡信用金庫関東町支店 普1032829
北越銀行本店 普1764663
大光銀行本店 普3011256
第四銀行長岡支店 普1560562

●**友の会事務局 / 河井継之助記念館**

●友の会ホームページをご存知ですか?

トップページをリニューアルしました！また、記念館とその周辺のホットなニュースをいち早くお届けするブログ「スタッフの徒然日記」も始めています。ぜひご覧ください。



友の会ホームページアドレス <http://tsuginosuke.net/>

新入会員ご紹介

(平成21年2月28日現在)

天野 紳一	千葉県茂原市	小林 勉	山梨県甲府市	藤岡 利雄	千葉県浦安市
五十嵐正道	新潟県新発田市	棚橋ヒサコ	新潟県長岡市	牧野 和人	長野県小諸市
伊佐 春美	新潟県長岡市	(株)中 越	新潟県長岡市	牧野 直人	長野県小諸市
稲持 正也	新潟県長岡市	西澤 一成	埼玉県さいたま市	三上 藤美	静岡県静岡市
大塚シズエ	新潟県長岡市	西原 忠雄	神奈川県横浜市	他、匿名希望	4名様
小高 俊雄	千葉県山武市	畠山 徳雄	新潟県長岡市		
金子 隆夫	東京都品川区	林 章子	新潟県長岡市		

以上22名(アイウエオ順、敬称略)

編集人・稲川明雄 嘉瀬宏美 樺澤幸子
櫻井良子 神保智子 伊佐春美
構成・月刊マイスキップ編集部
印刷・高津印刷株式会社



桃の節句も終わり、少しずつ陽射しが暖かくなってきました。春の訪れを感じつつ、会報「峠」四号を皆様のお手元にお届けします。(櫻井)

遠方からの客人

●インタビュー③ 自分の棺を作らせたという逸話

青森から転勤で新潟に来られた会員の男性にお話を伺いました。

溝延 芳久さん (55歳)



2008.12月9日(金)

河井継之助を知ったきっかけは？
— 司馬遼太郎の『峠』を読みました。

司馬さんの本はこれまであまり読んでいませんでしたが、一年半前に新潟へ赴任して読み始めました。

『峠』のなかで印象に残った部分は？
— 雪の中、峠を越えて江戸へ行った部分。簡単に書いてありますが、実際はすごく大変だったのだろーと思えます。それと、戊辰戦争で敗れて亡くなるところが印象に残りました。

継之助のyungyungunが好きですか？
— 型にはまっていなくていいところが好きです。具体的には継之助の考え方。当時の侍というより現代人の感覚に近いのではないかと思います。

— 亡くなる際、自分の棺を作らせたという逸話がありますが、本当のことなのでしょうか？もし本当ならすごいと思います。自分にはあーいう死には無理だろーうけれど死に方としては惚れます。人生でやることはやって亡くなったのではないかと気がします。

記念館の印象を教えてください。
— 大きくはないが、ゆっくり見られる記念館です。記念館の中には展示品が多すぎるころもあってゆっくり文章を見ることが通ります。パネルや説明もゆっくり読ませてもらいました。

他には何処へ行かれる予定ですか？
— 気になったのが、継之助のお墓のある栄涼寺です。これから行きたいと思います。(インタビュー / 櫻井)

●河井継之助記念館ゆかりの地マップをつくりました。



「河井継之助のゆかりの地へ行きたいが、どのように行けばよいかわからない」という声にお応えして、一口メモ付のポケットサイズの地図を作成しました。記念館からゆかりの地16ヶ所への行き方がわかりやすく説明してあります。ご自由にお持ち帰り頂けますので、来館の際はぜひご利用ください。

編集後記

●今年も二月二十二〜三月八日まで「越後長岡ひなものがたり」が開催され、時代を経て大切に受け継がれてきた雛人形たちが市内各所にお目見えしました。昨年引き続き、当館入口には江戸時代に与板藩主から贈られたという由緒ある雛人形が飾られました。

その気品あふれる雅やかな姿に引き寄せられ、初めて記念館を訪れてくださった方もおり、「招き雛人形」のおかげでいつにも増して賑わいました。